

イースターメッセージ

倒れても大丈夫

吉岡康子

(吉祥寺教会牧師、青山学院大学・女子短期大学宗教主任・准教授)

「ヘラクレスの 12 の冒険」というギリシア神話の中に、英雄ヘラクレスにとってもっとも手ごわかったのはアンタイオスであった、という話があります。アンタイオスは海の神ポセイドンと大地の神ガイアとの間に生まれた巨人でした。ヘラクレスはアンタイオスと戦って彼を大地に投げ飛ばします。しかし、このアンタイオスは大地に幾度投げ飛ばされても再び立ち上がってくる、それも、倒される前よりも力強くなって再びヘラクレスに立ち向かってくるというのです。さすがのヘラクレスも心底この相手を怖いと思います。しかしヘラクレスは腕力だけではなく智恵のある人でもありましたので、アンタイオスの強さの秘密について考えるのです。そして彼の母は大地の神ガイアであることに思い当たるのです。つまり、何度倒されても、母なる大地から力をもらって倒される以前よりも強くなるアンタイオスの強さの秘密を知ったヘラクレスは、空中で結着をつけるのです。

イエスさまの十字架を前にして弟子たちは全員主を裏切りました。弟子たちは絶望しました。倒れ臥しました。しかし、彼らが落ち込んで倒れた大地はイエスさまが真の「地の塩」となって、意味づけ、味をつけ、腐敗をきよめた大地であり、世界だったのです。イースターの朝に、イエスさまはご自分を裏切った弟子たちひとりひとりにふさわしい形で、ふさわしい場所で、出会い、ゆるしを与え、新しく使命を与えて、彼らを立ち上がらせてくださいます。弱くて、逃げ回って、沈黙していた弟子たちは、イエスさまのご復活の力をいただき、主の復活の証人として、力強く立ち上がりました。「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」(ルカによる福音書 24 章 32 節) 一度も倒れたことのない人が強い人ではありません。倒されても、失望しても、幾度もそこから立ち上がることができる人が本当に強い人なのです。ご復活のイエスさまから力をいただいて弟子たちは死をも恐れずに神さまの栄光の光を輝かす主の復活の証人とな

りました。

「暗いと不平を言う前に、進んで灯火を掲げましょう」これは古くからキリスト教会に伝えられ、受け継がれている言葉です。確かに 2020 年の今、私たちを取り巻く状況には様々な暗さがあります。問題があります。しかし私たちは倒れても大丈夫なのです。倒れたその場所でご復活の主と出会えるのです。ご自分のすべてをささげて地の塩となったださり、また決して消えない希望のともしびとなったださったイエスさまに従って、私たちも「光の子」としてここから進んで行きたいと願います。そのための力を、神さまが様々な人との出会いの中で与えてくださることに期待しながら、イエスさまのご復活の力に照らされて、このイースターの恵みのなかに踏み出して行きたいと願います。

(参考 高木幹太『イエスはどのような方か』)